

## 式 辞

本日、静岡県立大学から 618 名、静岡県立大学短期大学部から 135 名が卒業されました。また大学院から修士 83 名、博士 19 名、合計 102 名が修士並びに博士の学位を授与されました。晴れて卒業証書、学位記を授与される皆さん、誠におめでとうございます。2 年、3 年、4 年、6 年と、それぞれ課程において所定の単位を取得し、一定の能力を認められたわけです。また様々な資格を取得された方も多いでしょう。それぞれの持てる力と資格を武器にして、大いに世界で活躍されることを願っています。

ご臨席のご家族、保証人の皆様、これまでお育てなされたご子弟が独り立ちするこの日を迎えられる、お喜びもいかにばかりかと、お祝い申し上げます。

また、川勝県知事様、渥美県議会議長様を始めとするご来賓の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中、若者の学舎からの旅立ちをお祝い下さるために駆けつけてくださいました。誠に光栄に存じますとともに、日頃、本学の教育研究を支えてくださっておりますことに対して、教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

私は 4 年前、静岡県立大学学長として着任いたしました。学部を 4 年で卒業する皆さんとは、同期生という立場です。同期生として嬉しいことは、4 年前に入学した、一人の障害を持った学生が順調に単位を取得して卒業されることです。ご家族や友人たちの助けを得て、車椅子で通学し、みなさんと一緒に卒業します。今後は得意な語学力を活かした仕事をしたいと聞いています。その学生の存在は、周囲の学生に、どんな困難にも負けることなく、希望を達成しようとする勇気を与えたことと思います。心からご卒業をお祝いたします。

さて、私は、この 4 年間に二つの幸運に恵まれました。第一は、2017 年に本学が創立 30 周年を迎えたことです。それまでの静岡県立薬科大学、女子大学、短期大学が統合されたのが、1987 年でした。知事はよく、論語を引き合いに出して、「三十にして立つ」と言われます。自己の確固とした立場をもって揺るがず、自立するという意味です。この言葉は人間だけではなく、組織についても当てはまるのではないのでしょうか。本学は、県民のための大学として社会に貢献してきたと自負していますが、これからの 30 年、地域の大学としてどのような人材を育て、産業、経済、福祉に貢献していくべきかが、あらためて問われています。

す。

二つ目は、未だ記憶に新しいことですが、前理事長であらせられた本庶佑先生が、昨年 12 月にノーベル生理学・医学賞を受賞されたことです。本庶先生は現在、本学の顧問を務められ、また静岡県で働く医師の養成や社会健康医学の構築に関わる仕事をされています。本庶先生のノーベル賞受賞は我々にとって誇りであるとともに、とても大きな励みになったことと思います。

本庶先生がよく書に認められる言葉に「有志竟成」と言うことばがあります。意志がありさえすれば、ついには、ことは成る、と言うのでしょうか。裏返すなら、何かを実現するためには、強い意志が必要だ、と読むこともできるでしょう。今、時代は大きく変わりつつあります。まさにこのような状況のもとで、人の意識や意志が改めて問われているように思います。

イスラエルの大学教授で歴史家のユヴァル・ノア・ハラリも、人の意識すなわち、自分のいまある状態や、周囲の状況を注意深く認識することの重要性を強調しています。ハラリは『ホモ・デウス』という本を書いています。私にとって、昨年、最も印象に残った本です。現生人類をラテン語で「ホモ・サピエンス」といいます。道具や文字を用いる、「賢い人間」です。ところがこれからは、遺伝子工学や AI などの技術によって、もっともっと高い知能と大きな力を持つようになり、創造者、すなわち神のような存在に近づくだらう、というのです。それがホモ・デウスです。しかしそのような未来社会では、一握りの超人に対して、大多数の人々は機械や AI に仕事を奪われて「無用者階級」になるだらうとも警告しています。

そうならないようにするには、生涯を通じて学び続けて自己を刷新し、変化を前向きに受け入れていくこと、そして強靱な精神力を涵養しなければならない、とハラリは答えています。つまり強い意志や意識の涵養が必要だと主張しているのです。

昨年 11 月、中央教育審議会は「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題する答申を文科大臣に提出しました。そこでは、今年生まれた子供が大学を卒業する頃の 2040 年をどのように捉えているのでしょうか。そこで描かれるのは、第 4 次産業革命による新しい時代 (Society 5) への移行、グローバル化の拡大と地方創生の実現、SDGs (持続可能な開発目標) の達成、人生 100 年の時代とされています。答申では、これから起きる大きな変革を理解し、実践する

能力を持った人材の育成が求められています。2040 年といえばみなさんはまだ 40 歳代前半の働き盛りです。みなさんには、これからの社会を支える重要なメンバーであることを意識して、社会を先導していただきたいと願っています。

県立大学は 5 年前に、文部科学省の支援を受けて、地（知）の拠点、いわゆる COC 事業として、『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』に全学をあげて取り組んできました。地域を知るために「しずおか学」を設けて必修科目とし、静岡市、牧之原市など行政とも提携して、地域を活性化する人材育成に力を注いできました。その結果、昨年初めて、コミュニティ・ワーク力を身につけたと認定された学生諸君に対して、「コミュニティ・フェロー」の称号を付与することができました。

今年も、132 名の学生諸君にコミュニティ・フェローの称号を差し上げることができました。また、特に秀でた活動を行った学生 10 名を特別表彰することになりました。一人ひとりの名前は挙げませんが、薬学部の学生は禁煙に関する支援を行ったり、あるいは禁煙アドバイザー育成講習会を開催したりしました。本学では来月 4 月 1 日より全面的に禁煙とし、スモーク・フリー・キャンパスが実現しますが、その原動力になったと言えるでしょう。また地域防災や一次救命救急活動、健康増進活動、メディシェフ・アンバサダー活動、海外での難民支援活動に携わった諸君がいます。

三保に伝わる羽衣の伝説を各国語の絵本にして全県の諸学校に配布し、能「羽衣」の普及活動を 4 年間、継続して行った学生、地域コラボプロジェクトや若者の社会参画を促進する活動にリーダーとして従事した学生、大学生による個店や地域産業のコンサルティング活動に力をふるった学生が含まれています。

いま、一部の大都市圏を除いて、多くの地域で人口減少が進んでいます。その結果、地域経済が衰退し、地域の文化も失われて、地域における生活が立ち行かなくなるのではないかとの懸念があちこちで囁かれています。

しかし私は全く悲観していません。静岡だけではありません。いま全国各地で、地域を活性化する人材育成に力を入れています。少しでも地域に関心を持ち、ましてやコミュニティ・フェローとして認定された若者がいる限り、心配はいらないと信じています。どの地域でもいい。働く場を得たところで、あるいは家庭を築いたその場所で、それぞれの地域を大切にしてください。そしてそれぞれの地域の中で、良い関係を築き、他の人々とともに、他の人々のために支え合

いながら生きる社会をつくってください。

静岡県立大学が誕生してから 32 年間に、学士 14,898 名、修士 3,373 名、博士 748 名、短期大学士 7,235 名、総合計 26,254 名の卒業生、修了生を輩出しました。規模の大きな私立大学と比べるなら、決して大きな数ではありません。しかしそれだからこそ、卒業生同士が結束して知恵と力を合わせていただきたいと願っています。そして卒業後も、大学を頼ってください。何なりと相談し、あるいは提案していただきたいのです。

未来を創るのは皆さんです。オレンジ色の校章に描かれているのは霊峰富士とこれから羽ばたこうとする若鳥です。富士のように高い目標に向かって、力強く羽ばたいて下さい。大きな夢を持って、それを実現すべく、努力してください。みなさんの巣立ちを祝福し、輝かしい未来を祈念いたします。

静岡県立大学  
静岡県立大学短期大学部  
学長 鬼頭 宏